

クラウス・フリードリッヒ・ロス(Klaus Friedrich Roth)氏(元・ロンドン大学)が11月10日に逝去された。享年90歳。専門は整数論。

ディオファントス近似において基本的な「トゥエ-ジーゲルの不等式」の指数を決定し(「ロスの定理」と呼ばれている)、1958年にフィールズ賞を受賞した。

土倉保(つちくら・たもつ)氏(東北大学名誉教授)が8月29日にくも膜下出血のため逝去された。享年92歳。専門は解析学。

著書に『改稿数学新講』『応用解析概論』(学術図書出版社)、など多数ある。

小誌では、「自然数の開平とペル方程式[会田安明]」(2003年6月号、リレー連載「和の数学」)をご執筆いただいた。

南部陽一郎(なんぶ・よういちろう)氏(シカゴ大学名誉教授、大阪市立大学名誉教授)が7月5日逝去された。享年94歳。専門は素粒子物理学。

超電導理論を素粒子論に応用し「対称性の自発的破れ」と呼ばれる理論を構築。現在の素粒子論の基本的枠組みである「標準理論」の確立に大きく貢献した。2008年には小林誠氏、益川敏英氏とともにノーベル物理学賞を受賞した。

著書に『クオーク 第1版——素粒子物理の最前線』(講談社)、『素粒子の宴』(工作舎)、『南部陽一郎が語る 日本物理学の青春時代』(日経サイエンス社)、などがある。

阿部恒(あべ・ひさし)氏(元・日本折紙協会事務局長)が逝去された。享年86歳。

定規とコンパスだけでは作図ができない「作図不能問題」の1つである「任意の角の3等分」について、折り紙による作図法を発見し1980年代初頭に紹介したことで知られる。

著書に『お母さんと折るおりがみ』(サンリオ)、『大人の折り紙 遊ぶ・楽しむ・考える』(瑞雲舎)、『すごいで折り紙』(日本評論社)など多数ある。

小誌では、「エレガントな解答をもとむ」にて問題をご出題いただいた。

ジョン・フォーブス・ナッシュ・ジュニア(John Forbes Nash, Jr.)氏(プリンストン大学)が5月23日、交通事故により逝去された。享年86歳。専門は代数幾何学・偏微分方程式論。

リーマン多様体の埋め込み問題を研究し、「ナッシュ埋め込み定理」などで知られている。また、ゲーム理論(非協力ゲーム)における均衡解を研究し、現在では「ナッシュ均衡」と呼ばれる理論で経済学・社会学の分野でも知られている。さらに、ナッシュの半生を下地とした小説『ビューティフル・マインド』が2001年に映画化されたことで、世間一般で幅広く知られる数少ない数学者のひとりとなった。

1994年にノーベル経済学賞、2015年にアーベル賞をそれぞれ共同で受賞した。

ゲオルク・クライゼル(Georg Kreisel)氏(スタンフォード大学名誉教授)が逝去された。享年91歳。専門は数理論理学。

証明論や構成的数学の研究において大きな影響を与え、「ゲーデル-クライゼルの定理」などで知られている。

イジー・マトウシェク(Jiri Matousek)氏(カレル大学教授)が逝去された。享年 51 歳。専門は、離散幾何学、離散数学など。

専門の研究の傍ら離散数学周辺の入門書・専門書を多数執筆しており、翻訳され世界各地で使用されている。

邦訳された書籍として、『離散幾何学講義』(丸善出版)、『離散数学への招待(上)(下)』(共著、丸善出版)、『33 の素敵な数学小景』(日本評論社)などがある。

広田良吾(ひろた・りょうご)氏(早稲田大学名誉教授)が 1 月 17 日逝去された。享年 82 歳。専門は非線形波動、差分学、離散可積分系。

非線形偏微分方程式を双線型化して解く「広田の方法」などで知られる。著書に『直接法によるソリトンの数理解』(岩波書店)などがある。

小誌では「数の感覚」(1987 年 4 月号)、「戸田格子の 20 年」(1988 年 1 月号)、「差分方程式のかたち」(2000 年 9 月号)などをご執筆いただいた。